

学習内容報告書 フォーマット

学校名	貝塚市立津田小学校
授業者	藤原 猛

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

生き物のくらしと環境

1-2. 学年

6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科

1-4. 単元の概要

生き物と、他の生き物や周りの環境とのかかわりについて、いろいろな方法で調べその結果をもとに、どのようなことが言えるか考える。

生き物同士がつながっている「食物連鎖」について知り、全ての生き物の土台としての植物があることを知る。

生き物の環境を支える、空気、水、太陽の光などそのどれもが大切であり、それらが複雑に関係することを知り、環境破壊が起きている現実を知る。

そして私たちが、どのように環境にかかわっていけばよいかを考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

生き物と水、空気、食べ物とのかかわりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、生き物と環境について理解を図る。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

生き物と環境について進んで関わろうとする態度や、学んだことを生活に生かそうとする資質、能力を育みたい。

1-7. 単元の展開 (全 10 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	絵や写真を見て、生き物は他の生き物や周りの環境とどのように関わっているかを考える。 人の食べ物の本は何かを調べ、まとめる。	生き物や環境との関わりについて問題を見出し、表現しているか。
1	ダンゴムシが落ち葉を食べる様子や水中の小さな生き物を観察するなど自然の中で動物の食物を調べる。これらのことから生き物の食物を通した関わりについて考えまとめる。	自然の中の食べ物について生き物の中には食べる食べられるという関係があることを理解している。
2	生き物は酸素を取り入れて二酸化炭素を出しているが、植物は日光に当たると、二酸化炭素を取り入れて酸素を出していることを理解する。	光合成と呼吸について理解する。
1	地球を巡る水と生き物の関わりについて考え、まとめる。また複雑に絡み合う関係性から、そのどれもが欠けることなく保たれているということに気づく。	生き物と環境について空気や水、木生物の土台となる植物など水や空気が循環しているという事から、複雑に絡み合っているということを理解する。
2	貝塚の生き物について話を聞く。 ごみ問題を考えるために動画を視聴する。	貝塚には様々な生き物が存在することを知る。 貝塚市自然遊学館の講師の先生を招聘して、聞き取り学習を行う。
2	河口干潟や海浜での活動を通して、生き物の環境が単純ではないことを体感する。 プラスチックごみなど環境破壊が現実に行き来していることを実感する。	生き物と環境のことが、自分の身近な周りでも観察できること、そこから自ら考え、積極的に環境に関わろうとする資質、態度を養う。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

貝塚の二色の浜、近木川干潟、近木川ワンドにも様々な生き物がいることを理解する。
プラスチックなどのごみがたくさんある現実を知り、自分なりにできることを考える。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
近木川右岸干潟、ワンドでの観察では、近づいてみるとたくさん生き物がいることに驚く。 二色の浜では、貝殻やシーグラスなどを集めていると、同じような場所に環境に良くないと思われるごみがたくさん固まってあることを知り、驚く。しかし、そこに集まるからみんなで拾う活動のしやすさが分かる。 自分たちなりにできること「わたしの行動宣言」を考える。そして、しばらく生活する中で、改めて見直す。	干潟やワンドでは、博物館の学芸員の方々に同行してもらう。環境は変わっても、昔も今も変わらずに生き物はそこにいることを知ることができるようにする。 自然物と人工物は環境に与える影響に違いがあることを事前に理解し、実際に体験しながら考えられるよう促す。

3. 今回の活動の自己評価

事前にプラスチックごみが環境に与える影響について聞き取り学習を行ったり、黒潮実感センターとのオンライン交流を行ったりすることで、きれいな海や生き物の多さ、微小貝が多様性のバロメーターになっていることなどを知り、児童には環境を守るために自らの生活でできることはないか深く考える手助けになったと思われる。また、ビーチコーミングでは、自然遊学館や黒潮実感センターの講師の方に採集物について教わった。微小貝は探してもなかなか見つけることはできなかったが、浜にはごみがたくさんあり、この大量のごみを取りきることはなかなか難しいことを実感した。環境問題の解決の難しさを感じた。自分たちができることとして、自分たちだけでなく周りの人に伝えるなど、協力して取り組むことの必要性を感じていた。

4. 今後の課題

学級閉鎖などがあり予定が遅れ、環境を守ることを自分たちの身近なこととして考え、行動するところまでの時間が取りづらかった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。